

# 保育現場におけるパターン・ランゲージの活用

「その子の宇宙が拡がり続けるためのことば」の開発とゆずっこ保育園での研修報告

加藤 イオ<sup>\*1</sup>, 前重 仁美<sup>\*1</sup>, 佐久間 貴子<sup>\*1</sup>, 米須 正明<sup>\*1</sup>, 金子智紀<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 株式会社ベネッセスタイルケア

<sup>\*2</sup> 慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科

## Abstract

本論文では、首都圏を中心に保育園を展開するベネッセスタイルケアが開発した保育のパターン・ランゲージ「その子の宇宙が拡がり続けるためのことば」を、広島にある企業主導型保育施設2園でのスタッフ研修で活用した。この取り組みを通じて、ベネッセグループとは異なる保育施設におけるパターン・ランゲージの適用可能性と効果を検証した。研修を通じて、保育者は保育の質を向上させるための具体的な改善策を見出し、スタッフ間のコミュニケーションと協力を促進した。本研究は一例に過ぎないが、多様な施設での実施と効果の検討を通じて、パターン・ランゲージの普及と深化を目指す。

## 1. はじめに

1994年にスタートしたベネッセスタイルケア(以下、ベネッセ)の保育園<sup>1</sup>は、首都圏を中心に、2023年度認可保育園61園・4認可外保育園の65園を展開している。ベネッセの保育園のブランドメッセージ“その子らしく、伸びていく。”を掲げ、愛着関係の形成が重要な乳児期では応答的なかかわりを大切に、信頼関係を築きながら、子どもたち一人ひとりの成長を支援している。また、幼児期には、生活集団を異年齢で構成する異年齢保育を取り入れており、子ども同士のかかわりを深める工夫を行っている。

ベネッセでは、「ベネッセの保育の考え方」という指針に基づいて保育事業を展開しており、各保育園の園長や職員は、この理念に沿って子どもとの関わり方を考え、創意工夫を凝らしている。しかし、各保育園での実践の本質を保護者や社会に伝える共通の言葉がなく、事業の拡大と共に各保育園が理念に裏付けられた保育の質を維持し、高めることが難しくなっていた。この課題に対応するため、ベネッ

セでは保育の現場における実践知を言語化し、共有するために、パターン・ランゲージの手法(Alexander, *et al.*, 1977; 井庭, *他.*, 2013)を採用し、保育のパターン・ランゲージを作成することとした。

本論文では、ベネッセにおける保育のパターン・ランゲージの作成過程と概要について説明したのち、保育園での活用とその結果、考察を示す。

## 2. 保育のパターン・ランゲージ

### 2.1. 作成プロセス

ベネッセの保育園におけるパターン・ランゲージの作成プロセスは、以下の5つのステップで構成されている。

#### ① 保育園訪問と園長へのインタビュー

2017年6月から10月にかけて、開設時期や地域性、施設の特徴に基づいて選ばれた複数の保育園を訪問し、園長にインタビューを実施した。この過程で、保育理念の捉え方や実践への結びつき、さまざまなエピソードを収集した。

<sup>1</sup> ベネッセの保育園: <https://hoiku.benesse-style-care.co.jp/>

## ②インタビュー結果の分類と分析

収集したインタビュー記録をテキスト化し、「ベネッセの保育の考え方」で示された4つの環境(時間、空間、人・仲間、遊び・生活)を基に、共通する要素を分類した。それに基づき、約70のキーワードを作成し、これらを用いて実践の情景を100文字で記述し、最終的に約50の言葉でパターンを的確に示した。

## ③パターン・ランゲージの作成

上記で得た約50の情景を「状況」「問題」「解決」「結果」の要素に分解し、パターン・ランゲージのフレームワークに基づいて分析した。この過程で、「パターン名」と「イラスト」も作成し、最終的に7つのカテゴリーから成る40のパターンにまとめた。

## ④試作版の完成とエピソード募集

作成されたパターンが、インタビューを行わなかった保育園でも実践されているかを検証するため、53の保育園全てに試作版を配布し、職員から関連するエピソードを募集した。その結果、40のパターン全てに紐づく170のエピソードが寄せられた。

## ⑤パターン・ランゲージの仕上げ

収集された170のエピソードの中から、各パターンを象徴的に表すエピソードを選び、パターン・ランゲージに加える形で、2018年12月に完成版が作成した。

## 2.2. 作成した保育のパターン・ランゲージ

本研究で作成した保育のパターン・ランゲージに「その子の宇宙が拡がり続けるためのことば」と名付けた。このパターン・ランゲージは、全40パターンで構成されており、7つのまとまりに分類される(図1)。子ども一人ひとりが中心となる様々な環境(時間、空間、人・仲間、遊び・生活)に焦点を当て、それぞれの子どもごとに異なる環境の捉え方を理解し、ベネ

ッセの保育を進め、深めるための実践を支援する共通言語として活用することを目指している。

各パターンに関しては、図2に示すように、見開き2ページで紹介されている。左ページの上部にはパターン名を掲載し、一行の短い文章と英文でパターンを連想させるとともに、イラストを用いて読者の想像を刺激する。左ページ下部には子どもを取り巻く状況が示され、右ページ上部では「その状況において」としてパターンを困難にさせる問題が端的に述べられる。箇条書きで問題の根本や気付きの要素が解説され、問題解決の糸口を明示する。中段からは「そこで」として解決方法を紹介し、具体的な事例をもとにした方法が記述される。そして、「そうすると」として結果に至るプロセスが説明される。右ページ下部には関連するパターンが紹介され、子どもへの気付きや関わりを拡げる機会を提供する。各カテゴリー間には、保育園から寄せられたエピソードが挿入され、これによりパターンはさらに補完され、実践における行動の強化が促される。

## 3. 活用と結果

### 3.1. 活用方法

本章では、「その子の宇宙が拡がり続けるためのことば」の活用事例として、広島にある企業主導型保育施設「ゆずっこ保育園<sup>2</sup>」のスタッフ12名、「ゆずっこ保育園むかいしま<sup>3</sup>」のスタッフ10名、を対象とした研修を実施した研修の事例を取り上げる。参加者は、日頃から担当する幼児クラス(3~5歳児)、乳児クラス(0~2歳児)に分かれ、1つのチームとなり、グループで議論をしてもらった(図3)。

なお、研修を実施するにあたり、「その子の宇宙が拡がり続けるためのことば」の内容を複数人で見やすくするためにデザインされたカード版を使用した。以下、研修のステップである。

<sup>2</sup> 企業主導型保育施設 ゆずっこ保育園  
<https://yuzucco.com/?p=675>

<sup>3</sup> 企業主導型保育施設 ゆずっこ保育園むかいしま  
<https://yuzucco.com/?p=679>



図2 「その子の宇宙が拡がり続けるためのことば」の全体像

**問題**

**その状況において**  
 保育者の都合や時間を優先した保育を行っている、  
 子どもが感じることに気づけず、子どもの欲求にも応えられません。  
 ※0歳の子にとって入園して過ごす1年目は、その子の人生1年目と同じ、つまり1分の1です。  
 ※保育者や保護者の言動は、乳幼児のその後の成長や人間形成に少なからず影響を与えます。  
 ※多くの子どもたちにとって、保育者は初めて家族以外で密に接する人になります。

**解決**

**そこで**  
 0歳児のクラスでは、その子が安心して保育園での生活を送れるようになるまでその子のいろんな欲求や、やりたいことを叶えてあげましょう。  
 ・保育者は授乳、おむつ替え、おひるね、遊びと生活全般にかかわりを持ちます。  
 ・それぞれのかかわりにおいて、一人ひとりの子どもと保育者の信頼関係を築くために、しっかりと触れ合いを大切にします。  
 ・授乳やおむつ替えを単なる作業にしないために、それぞれの行為に相応しいスペースを保育室の中に設けます。  
 ・一つひとつの行為の前に「○○しようね」など先を見通す言葉を添え、また後にも、「気持ちよかったね」、「自分でできたね」と、共感の言葉を伝えましょう。  
 ・子どもが欲求を伝えてそれが叶えられた、という確かな手ごたえをつかむために、子どもの目を見て伝えましょう。

**結果**

**そうすると**  
 子どもは、人から愛されている実感を持つことができます。その子の欲求が叶えられ、  
 気持ちが満たされることによって、自分に自信が生まれ、表現することが怖くなくなり、  
 自分の主張を人にしっかりと伝えることができるようになります。

No.009 どうしたの? / No.017 薄味は一生の宝物 / No.035 3つのいいところ

図1 「その子の宇宙が拡がり続けるためのことば」一例《ひとついいな》

1. **カードの配置:** パターン・ランゲージのカードを机の上に並べ、全員が見やすいようにする。
  2. **評価の分類:** 参加者は話し合いを行いながら、カードを「○」(園全体としてできている)、「△」(一部できているが改善が必要)、「×」(できていない、改善が必要)の 3 つのカテゴリーに振り分ける。
  3. **改善点の特定と議論:** 「△」と「×」のカードから、各参加者が 1 枚を選び、どのように改善すれば「○」になるかを考える。参加者間で被りがあっても構わない。
- ・ 保育者自身が声をかける前に一呼吸置き、声をかけるようにしていく。
  - ・ その子がなぜその行動をとったのかを考え、そのためにどうすればいいのかを伝えていく。
  - ・ 何がしたかったのか、どういう思いがあったのかを考えるようにする。

#### △12 遊びを軸にする

- ・ 園内だけの活動ではなく、園外へ出て思いっきり体を動かして遊べる場所と時間を十分に設けていく。
- ・ 運動会の練習で、コミュニティセンターを利用し、思う存分走り回ったり、広々とした場所を使ってのボールあそびをする姿を見て、のびのびと遊べる空間を提供する機会が増えると良いと感じた。

#### △18 食べるは楽しい

- ・ 「おいしいね」などの声かけをしている。苦手な食材でも頑張って食べるように、伝える時は子どもにとってたのしくない時間かもしれないけど、食べれた時は、「頑張ったね」「かっこいいよ」など、子どもが頑張ったことを認めてあげる声かけをしている。ゆっくり食べる子や、なかなか食べ進まない子に、食べるよ

### 3.2. 活用結果

この研修を通じて、スタッフは保育の実践において直面する課題を特定し、具体的な改善策を考え出す機会を得た。各提案は、保育園の日常における小さな変化が大きな影響を及ぼすことを示しており、スタッフの意識と行動において重要な一步を示すものとなったことが窺える。以下、△と×となったパターンと、具体的な改善案である。

#### ①「ゆずっこ保育園」での活用結果

##### △09 どうしたの？一拍置いてみる



図3 研修の様子

うに伝えることがあるので、急がされていると  
かんじないような声かけを工夫する。

#### △23 ピットイン

- ・ 子どもは狭い場所を好むので、少し大きめの段ボールなどを立てて置いて中に入れるようにして、レースをかけるなどして、スッポリは言って落ち着ける場所を作るなどして一息つけるようにする。

#### ×07 言葉は渡すもの

- ・ 子どもが大勢いる中では、日常的に声が大きくなりがちなので、声の大ききで伝えるのではなく、一人ひとりとの対話を大切にし、できるだけ近くでゆとりをもって接していくよう心掛ける。子どもの声に耳を傾ける。

#### ×28 小さなきっかけから

- ・ 散歩や園庭で育てている花や植物の小さな変化を子ども達と共有していきながら過ごしていく。

### ②「ゆずっこ保育園むかいしま」での活用結果

#### △12 番遊びを軸にする、25 番自分で決める、31 番活動／発見の連鎖

- ・ 子どもたちはあそびから様々な学びを得ている。子どもの遊びが子ども主体となっているか？改めて振り返ることで、より良いあそびの環境を提供していきたい。その為にも子ども発信の言葉をしっかりとキャッチし、そこから遊びを広げていくよう保育者が常に意識していくようにする。また各クラスの担任がしっかりと子どもの様子を話し合うことで、誰が今どんなことに興味を持っているか？など共有して遊びのヒントにしていく。

#### △11 変化は進化

- ・ 遊びがマンネリ化しないように、玩具の内容を保育者が意識して変えていくようにする。
- ・ 子どもの発達にあった玩具を購入する。

#### △05 1/365

- ・ おやつの際に Happy Birthday を歌う。
- ・ お休みの間に誕生日がきた子どもも保育園で祝うことができるよう、休み明けにお祝いする。(誕生日会以外にも誕生日をお祝いのする。)

#### △04 足の裏から人生がはじまる

- ・ 日頃から散歩などで坂を歩く、積極的に散歩へ行くようにする。
- ・ 広いグラウンドなどで遊ぶことができるように公園も利用する。

#### △023 ピットイン

- ・ 一息つける場所が保育者の目が届く所でないと危ない。
- ・ 0 歳児保育室のベットの隙間や牛柄マットの上に座ることで落ち着く子どもがいるので、子ども人に合わせてスペースをつくるようにしていく。

#### △30 遊びを混ぜない

- ・ 机や色マットで遊ぶ場所を分ける。出入り口付近には玩具を置かないようにする。
- ・ 1 人遊びをしている子どもが遊びに集中して没頭できるように、配慮する。

#### ×27 こどもからはじまる

- ・ 子ども主体性を大切にしながら保育をする。(好き放題と混同しないようにする。)
- ・ 子ども発信のものを大人が拾ってできるようにしていくためには、職員間の話し合いや観察力が必要。

#### ×33 アトリ園

- ・ 子ども達が創作活動できる環境を作る。

- ・ 設定保育の中で、保育者が廃材などを準備して、自分たちで好きに物づくりができる環境を作る。

#### ×39 なみだとけんかは園の華

- ・ 保育者人人が個々でトラブルの対応を行うが、共有ができていないので、事例検討をしながら一過性のある関わりができるようにしていく。そのための話し合いの時間を設ける。

#### <感想・意見>

今回の研修をすることで、日々の保育の良い振り返りの機会となった。ゆずっこ保育園むかいしまとして目指している保育についても話すことができ良かった。全体的にみんなが感じていた「子ども主体の保育」をどうすれば良いか？できていないことは何か？について話し合うことができ良かった。今日の研修の内容が日々の保育に生かされるように、できることをすぐに実践していきたいと思った。

#### 4. 考察

本論文では、ベネッセの実践を集約したパターン・ランゲージを、ベネッセグループとは異なる保育施設にて活用する試みを行った。

パターン・ランゲージの活用の先行研究として、例えば、学びに関するラーニング・パターン (Iba & Iba Lab, 2014) を用いて、個人的な学びの経験やエピソードについて語り合う「対話のワークショップ」(井庭, 2014; Iba, 2014)。他にも、パターン・ランゲージをカード形式にまとめたパターン・カードを用いた対話手法の報告もある。企業における企画の経験やリビングラボ実践のノウハウ、保育現場におけるミドルリーダーの実践経験の共有の場面で活用されており、経験を振り返るための手助けをすることや話題が脱線することなく効率的にノウハウ共有すること、実践のいきいきとした質感が他者に伝わりやすくなるということが報告されている (Iba, Mori &

Yoshikawa, 2019; 天野 他., 2019; 赤坂 & 中谷, 2020)。

本研究で実施したワークショップの結果からも、先行研究同様の効果として、改善点の特定とスタッフ間のコミュニケーション促進を促すことが示唆された。このことから、作成したパターン・ランゲージが異なる施設の保育実践においても有効に機能する可能性が示された。

しかし、これは一つの事例に過ぎず、他の多様な施設での実施とその効果の検証が今後の課題である。パターン・ランゲージを異なる環境や条件下で適用し、その普遍性と特異性を検証することが重要である。また、スタッフの研修や教育におけるパターン・ランゲージの組み込み方法についても、さらなる研究が必要である。今後は、より広範囲の保育施設での実践を通じて、パターン・ランゲージの普及とその効果の深化を図っていきたい。

#### 謝辞

研修にご協力いただいたゆずっこ保育園、ゆずっこ保育園むかいしまのスタッフの皆様には感謝を申し上げます。シェパードを担当してくださった井上絵里加さん、ライターズワークショップにてたくさんの方のフィードバックをくださった WWJ2 グループの皆さんにも心から感謝を申し上げます。

#### References

- Alexander, C., Ishikawa, S., Silverstein, M., Jacobson, M., Fiksdahl-King, I. & Angel, S. (1977) A pattern language: towns, buildings, construction. Oxford University Press. (クリストファー・アレグザンダー 他, 『パターン・ランゲージ: 環境設計の手引』, 鹿島出版会, 1984)
- 赤坂 文弥, 中谷 桃子 (2020). Living Lab Pattern Cards and Workshop: リビングラボの実践ノウハウを共有するためのツールとワークショップの開発. サービスロジー論文誌, 4, 2, 1-12.
- 天野 美和子, 野澤 祥子, 宮田 まり子, 秋田 喜代美 (2019). 「ミドルリーダー・パターン」を用いた

主任保育者研修の検討. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 59, 449-465.

井庭 崇, 中埜 博, 竹中 平蔵, 江渡 浩一郎, 中西 泰人, & 羽生田 栄一.(2013). 『パターン・ランゲージ: 創造的な未来をつくるための言語 (リアリティ・プラス) 』, 慶應義塾大学出版会.

井庭崇(2014). 創造的な対話のメディアとしてのパターン・ランゲージ: ラーニング・パターンを事例として. Keio SFC journal, vol.14, p.82- 106.

Iba, T. and Iba Lab. (2014). Learning Patterns: A Pattern Language for Creative Learning, CreativeShift Lab, Yokohama.

Iba, T., Mori, H. and Yoshikawa, A.: A Pattern Language for Designing Innovative Projects: Project Design Patterns, International Journal of Entrepreneurship and Small Business, Vol. 36, No. 4, pp. 491- 518(2019).